

令和 8年 10月 1日

教員の公募について

国立大学法人 三重大学
大学院生物資源学研究科長
〔公印省略〕

本研究科において、下記要領で教員を公募いたします。

1. 職名・募集人員

助教・1名（女性限定）

2. 勤務形態

常勤（任期なし）

3. 所属

生物圏生命科学専攻・海洋生物学講座・海洋生態学教育研究分野

4. 講座および教育研究分野の教育と研究内容

海洋生物学講座では、海洋の沿岸域、沖合域、深海域をはじめ、湖沼や河川も含めた多様な環境とそこに生息する水生生物を対象に、その特性を理解し、多様性を保全しつつ、生物資源としての有効かつ持続的な利活用を行うための基礎から応用まで様々な研究活動を行っています。また、当講座では、こうした過程で得られた知見を教育面においても活用し、海洋環境や海洋生物資源を取り巻く様々な問題に対して多面的な視野からの解決能力を有する人材を育成しており、これらの活動を通じて、豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。

その中で、海洋生態学教育研究分野では、干潟・塩性湿地から深海までの多様な環境に生息する重要な生物資源である底生生物の生態系の保全を目的として、主に貝類を対象に生活史や生育環境、繁殖、成長等の研究、ならびに絶滅危惧種の保全や外来種の防除対策に関連する研究を行っています。また、生物資源学研究科や学部の学生を対象として、底生生物の生態・保全・管理に関する教育を行っています。

5. 担当予定授業科目

（学部）海洋動物学実験、海洋生態学実習、海洋生物資源学演習Ⅰ・Ⅱ、臨海実習、卒業研究 など

（大学院博士前期課程）海洋生態学特論、海洋生態学演習、海洋生物学特論、海洋生物学特別研究Ⅰ・Ⅱ など

（大学院博士後期課程）水圏生態学、特別演習、特別実験、特別調査研究 など

6. 応募資格・条件

- (1) 博士の学位を有し、学部学生および博士前期・後期課程の学生の指導に熱意を持って取り組めること。また、大学において講義、実験・実習等の担当経験を有していることが望ましい。
- (2) 生態学的観点からの底生生物に関する研究実績を有すること。とくに貝類における絶滅危惧種の系統分類、浮遊幼生期を含む生活史や生態、および集団遺伝学的アプローチによる増殖・保全・管理に関する研究の実績を有すること。
- (3) フィールド調査および飼育実験、次世代シーケンサーを用いた遺伝学的解析により、絶滅危惧貝類の生態や保全対策に関する研究を遂行した実績を有すること。
- (4) 水産実験所や練習船を用いた海洋生物学および水産学系の実習を担当できること。
- (5) 地域共創大学としての三重大大学の目標を理解し、地域創生につながる地方自治体・地元企業等との共同研究や高大連携活動等に積極的に取り組めること。
- (6) 着任後は、研究科・専攻・講座・教育研究分野の管理運営、および研究科における各種委員会等の活動にも積極的に関わること。

三重大大学では、多様な人材の積極的な応募を歓迎します。

※本学では、「三重大大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」(令和4年12月27日)を行い、学内保育園や研究補助員配置など研究教育環境の整備やワーク・ライフ・バランス支援の取り組みを積極的に推進しています。詳しくは下記の URL をご参照ください(<https://www.diversity.mie-u.ac.jp/>)。

※男女雇用機会均等法第8条(女性労働者に係る措置に関する特例)の規定に基づき、女性教員の割合をより増加させることを目的として、女性に限定した公募を行います。

7. 応募書類(A4判で作成のこと。いずれもPDFで提出。)

- (1) 履歴書(写真貼付)※本学指定の様式に限る。
- (2) 業績目録
 - 原著論文、国際学会プロシーディング、著書、総説・解説、特許、その他に区分し、発表時期の新しいものから順に並べ番号を付すこと。受理に至っていない投稿中の論文は含めないこと。
 - 学術論文については、査読制度の有無を記載し、応募者が筆頭あるいは責任著者である論文の番号に「*」を付すこと。
 - 原著論文については、各業績の概要および自らの貢献度や実際に担当した部分について説明する文章(200字程度)を添えること。
- (3) 上記業績目録に掛かる別刷(代表的なもの5編程度)
- (4) 研究費獲得実績、プロジェクト参加実績一覧
- (5) 教育に関する実績一覧
- (6) 社会連携に関する実績一覧
- (7) 管理運営に関する実績一覧
- (8) これまでの研究活動に関する概要(1000字程度)。上記業績目録で原著論文に付し

た番号を引用すること。

(9) 着任後の教育・研究活動に関する抱負(1000字程度)。

(10) 応募者の連絡先(住所, 電話番号, メールアドレス)

(11) 応募者についての照会先(2名:氏名, 所属, 役職, 電話番号, メールアドレス)

8. 応募期間 令和8年10月1日(木)～令和8年11月15日(日)

9. 選考方法

書類審査を主としますが, 選考の過程で面接を行う場合があります。

面接の場合の旅費は, 自己負担となります。

10. 着任時期

令和9年4月以降のできるだけ早い時期

11. その他

給与は三重大学年俸制適用教員給与規程による年俸制とし, 年俸額は採用候補者の経歴などを勘案して決定されます。

12. 応募書類提出要領

電子データでの提出。応募希望の方には提出用URLをお送りしますので, 下記メールアドレスに11月2日(月)までにご連絡ください。なお, メールの件名には「海洋生物学講座助教・公募書類提出用URL希望」と記載してください。

三重大学大学院生物資源学研究科 生物圏生命科学専攻

専攻長 教授 筒井 直昭

E-mail: seibutsuken@bio.mie-u.ac.jp

13. 問い合わせ先

三重大学大学院生物資源学研究科 生物圏生命科学専攻 海洋生物学講座

講座主任 教授 倉島 彰

TEL: 059-232-1211 (三重大学代表)

E-mail: kurasima@bio.mie-u.ac.jp

1 4. 参考

海洋生物学講座教員一覧（令和 8 年 10 月 1 日現在）

教育研究分野	教授	准教授	助教
生物海洋学	石川 輝		ラム ワイ マン
水族生理学		宮崎 多恵子	
藻類学	倉島 彰		渡邊 裕基
浅海増殖学	松田 浩一 筒井 直昭		山本 康介 古川 雄裕
先端養殖管理学	一色 正	北村 真一	
魚類増殖学	淀 太我		
海洋生態学	木村 妙子		[本公募] 井上 香鈴* ¹
水圏資源生物学		伯耆 匠二	
水圏分子生態学	河村 功一		
海洋個体群動態学		金岩 稔	
応用行動学		森川 由隆	
水産応用情報学		岡辺 拓巳	
鯨類学	森阪 匡通	船坂 徳子	
発生・代謝機能解析学* ² (水産技術研究所)	藤原 篤志	山口 寿哉 鈴木 博史	

*¹ 研究基盤推進機構所属

*² 連携大学院

生物資源学研究科のホームページ

<https://www.bio.mie-u.ac.jp/>

生物圏生命科学専攻のホームページ

<https://www.bio.mie-u.ac.jp/academics/master-15/dep03/index.html>

以上